

The Correspondence of Noboribetsu City Nature Center

登別市ネイチャーセンター ふおれすと鉦山
ニュースレター

鉦山 録



えぞりす
Illustrated by Hiyama T.

Contents

Vol. 15

Jan. 2006

特集 4年目を迎えたふおれすと鉦山	
「協働」第2ステージへ。.....	2
オープンから43ヶ月の活動報告.....	4
進化するコラボレーション.....	5
リトル・ヴォイス ~リレーエッセイ~	7
お知らせ.....	8

それは「特別」なことなんかじゃ
なかったんだ。

「協働」 第2ステージへ。

「協働」「きょうどう？」

ふおれすと鉱山で働く、ということが決まった当時、コーディネーターである宮本氏に「こんなやり方でやっていくから。たのむよお、ウエダくん」と、説明を受けた記憶がある。雪と風が強い日だった。

その説明の中に、「協働」という言葉が出てきた。

「はあ、きょうどうね、ハイハイ」とさも分かったような返事をするも、実際それが一体何なのかよく知らなかったし、第一「きょうどう」ってどんな漢字で書くのかも分からなかった。「ようするに、コラボレーションだよ」…はあ？？ますます分からない…。今でこそ、『協働』という言葉はよく見るが、そのころは、まだほんの一部の人しか知らない概念であった。

しかし、そんな気持ちになったのは、たぶん、ぼくだけではなかったと思う。字面では理解できても、当時「協働」なんていう言葉を念頭において活動したことのある人は、たぶん、いなかったはずだ。「こつたらむずかしそうなこと、できるんだべか」って、みんなドキドキしていたんじゃないかな。

「みんなでやるべさあ」

ドキドキしたまま、とにかく、やってみた。

そしたら、「協働」は、なんてことはなかった。もうすでに、マチの人の中に存在していた。

要するに「みんなでやるべさあ」という、昔からどこの地域でも普通に行われていた、相互扶助的な風土そのものに、今で言うところの「協働」のすべてが凝縮されていたのだ。

それを現在風にアレンジして、関わって下さる方々に分かりやすい形と目標を提案しつつ、その現場で生まれた感動や達成感を共有し続けてきた。本当に、多くのことをみなさんに気づかせてもらい、また共に育ってきたと思っている。

その結果が、「NPO法人モモンガくらぶ」という、美しい結晶として誕生した。行政にかわって、地元の市民や利用者が結束し、ふおれすと鉱山の運営主体となってしまおう、というのだ。今、そのための準備が、少しずつ始まっている。これは、ついに市民による環境ガバナンス（＝統治）という究極目標にむけての第2ステージが動き出したとっていいだろう。

「どきどき」と「わくわく」のはざま

「こつたらむずかしそうなこと、できるんだべか」って、みんなまたドキドキしているんじゃないかな。でも、前回のドキドキとは違って、それ以上にワクワクしているのは、ぼくだけだろうか…。どうなるんだろう。どうやったらもっと楽しくなるかな。今までたくさん助けてもらったから、今度は助けてあげなきゃなあ、いやいや、また助けられちゃうのかなあ…。

穏やかに降る雪を眺めながら、そんなことを思っている。

協働

このふおれすと鉱山で「協働」のスタイルを作った理由には大きな下地があった。それは、ふおれすと鉱山ができると同時に、ここを支援するために結成された組織の存在。今では、その組織は「NPO法人モモンガくらぶ」へと進化を遂げ、着実に力を増してきている。このモモンガくらぶの存在なしでは、ふおれすと鉱山は語れない。

第2ステージに向けて

①協働の領域をシフトします

今までは運営領域の大部分を行政が担当し、足りない部分を地元NPOであるモモンガくらぶ、あるいは専門NPOであるねおすが手伝うという協働スタイルでしたが、今後は運営のメインをモモンガくらぶが行い、スポンサーとして行政が関わるという協働スタイルへと大きくシフトしていきます。そのための準備を、少しずつ進めていきます。これにより、利用条件は変わらずにより利用者側に立ったよりよいサービスの提供が期待できます。

今の ふおれすと鉱山

行政が運営主体で、専門NPO、モモンガくらぶは補助的な役割。ウエイトとしては、行政が8割、市民が2割だった。

次の ふおれすと鉱山

NPOモモンガくらぶが運営の母体となり、行政はスポンサーに。ウエイトは逆に行政が2割程度になっていく。

②来年度の事業計画作成に、 モモンガくらぶは参画します

その準備のひとつとして、モモンガくらぶがふおれすと鉱山の事業計画作りに深く関わります。今までふおれすと鉱山が開催していた「利用者懇談会」をモモンガくらぶが開催し、より利用者の立場に立った声を集約して来年度の事業計画の作成へと反映させます。

③ふおれすと鉱山が主催する事業への 参画度合いを高めます

ふおれすと鉱山で実施している様々な事業に対しても、企画・立案の段階から関わるなど、参画の度合いを高めることで、より事業展開の幅の広げるとともに、ふおれすと鉱山が蓄積しているノウハウを徐々にモモンガくらぶへ移管し、そのノウハウが組織全体のものになるようにしていきます。

市民の

ウエイト

運営のウエイト概念図



そもそも「楽しい」「おもしろい」
ということ抜きには、
協働は成り立たない。
関わるみんなが「楽しめたのか」
は、大きなポイント。

だから、現場には
こんな表情をしている人たちがいつもいます。



to the next COLLABORATION

オープンから43ヶ月目の活動報告

●ふおれすと鉱山の主催事業

冬の動物観察ウィーク 12/6~9

冬を迎える動物たちの暮らしを垣間見ようと、寒空の中を、じっと待ちつづけました。日常にはなかなかない貴重な時間となりました。

チカタビレンジャー【森林整備ボランティア】 11/3、12/10

ふおれすと鉱山流里山づくりプロジェクトの始動にむけて、森づくりの作業が始まりました。切り出された間伐材の皮むきや稚樹の移植など、今後の森づくりに向け、多くの作業がはかどりましたよ。

鉱山のんびり自然歩き【平日プログラム】 10/7・25、11/3・10

鉱山史跡めぐりと旬の情報をお届けする散策でした。色とりどりの艶やかな紅葉の色合いを楽しみ、葉が落ちてしまった後も、鉱山の歴史に思いを馳せる、そんないつもと違う楽しいひと時を過ごしましたよ。

森のようちえん【幼児の自然体験プログラム】 10/15、11/26・27

10月は、森の木を使って、ベンチづくりに挑戦。その後には、ふおれすと鉱山にやってきている木の遊園地ともめいいっぱい遊びました。11月は、森から、ちょっとだけ木の幹や枝や、葉っぱをもらって、みんなが暖まれる“いえ”を作りました。子どもも大人も力を合わせて一生懸命つくりましたよ。

コーザン・ながぐつレンジャー【子どものお仕事体験プログラム】 10/8、11/26

レンジャーたちの活動も、ふおれすと鉱山で進められている森づくりに一役かかってもらっています。10月には、木道をつくったり、トドマツ林内の稚樹を移植して鉱山に自生する樹から種あつめも行いました。11月は、トドマツ林から1本の木を伐採して、皮をむくところまでやりました。森づくり期間中ならではのお仕事体験です。



●ふおれすと鉱山の協働事業

わくわく木育ランドinのぼりべつ ふおれすと鉱山 10/14~16

大好評をいただき、子どもから大人まで約1500人の方が、木のおもちゃで遊んだり、木や材や森に触れるプログラムなどに参加していただきました！また、運営にあたっては、のべ250人のボランティアの方々に運営から炊き出しまでお手伝いいただきました。本当にありがとうございました！

●モモンガくらの主催事業

ランプシェードづくり 11/20

モモくら発、自然素材が生きるランプシェードづくりは、思い描いたイメージをふくらませて製作がすすみ、柔らかな灯がステキな一品が出来ました。当日に完成しなかった作品もありましたが、数日後完成した作品を手にした参加者の方々の完成報告も届きましたよ。

草木染め 11/9

モモくら初公開の手法を伝授。今回はクリのイガを使って、ミョウバンを媒染に染めました。地味ですが、とても渋い暖かみのある色で、みなさんのオリジナルが出来上がりました。

第2期コーザンネイチャーガイド(KoNG)養成講座 11/5~6、12/4

第2期コーザンネイチャーガイド養成講座はすべての講座が修了しました。最終回では、鉱山の史跡を巡り、マップづくりを行ったほか、動物・植物講座、ガイド概論などのおさらいをしました。卒業検定として、実際にお客さんを募集してガイドの実地演習も行いました。晴れてKoNG資格認定を受けたガイドによって、このシリーズは今後も続けられますよ！

秋のハイキング 10/23

絶好のハイキング日和の中、今回はロングコースの12kmを歩きました。秋色の染まり具合もGOODで、時折、リーフシャワーが歓声を誘いつつ、秋の美味しい空気を吸って悠々と歩きました。途中の用意された茶屋では甘酒、お汁粉、の特典もありましたよ。



●受託プログラム・その他の活動（学校対応など）

10月 登別小学校、青葉小学校、虎杖浜小学校宿泊学習、登別市内子育て支援グループ、文短ようちえんの保護者の方々、岩手県久慈市視察

11月 登別市図書館まつり、文短ようちえんの保護者の方々、第一回下期運営会議開催、スペシャルウィーク2005実行委員会

SPW

スペシャルウィーク

進化するコラボレーション ③

「スペシャルウィークって、なんだ？」スペシャルウィーク（以下SPW）とは、まるでお祭りのように‘旬の自然体験（遊び・学び）’が出店形式で揃えてあり、地域の子どもたち・大人たちに楽しんでもらうイベントである。また、SPWは、ふおれすと鉢山の協働事業に位置し、モモンガくらぶをはじめとする市民ボランティアのみなさんと一緒に作り上げてきた。2003年5月にスタートしたSPWは、この3年間でさまざまな過程を経て、進化してきたのだ。



関わるボランティアのみなさんも、最初は、「手伝ってやるかあ〜」からはじまった（ハズだ）。その後、それぞれの得意技や、やってみたいことがプログラムになって展開していく。SPW、そこは、スタッフ、関わるボランティアのみなさんにとっても、新しいものを生み出すチャンスの場合、実践していくチャレンジの場合だったのだ。そして、そこから、関わるタノシサが生まれ、自分たちのタノシミも生まれ、集まるバが生まれた。さらに、回を重ねるごとに、それはヤリガイや達成感へとつながっていったのだ。

やがて、草木染め、ミニミニクラフトなどのヒットプログラムが続々と誕生した！スペシャルウィークをねらって、またやってきてくれる参加者も増えてきた！！そして、SPWは、地域密着型自然体験イベントとして定着するまでとなったのだ！！

だが、SPW、これだけでは、終わらない。

今まではどちらかというと行政主導の協働事業となっていたが、「やっぱり、オレタチがやるかあ！！」と、実行委員会形式へと進化を遂げた。企画から、広報から、準備から、SPWのおはようからおやすみまでを実行委員会が行なう。ヤリガイ、タノシサとともに関わる責任も併せ持つ。もちろん、実行委員会だけではなく、市民をはじめとするたくさんの方のみなさんの力を借りてすすめていくのだ。そして、この進化は、遊びに来てくれる方々の力もないと遂げられないのである。そうしてSPWは本当の意味で市民のものへと、新しい協働へと、進化を続けてゆくのだ。

もちろんこの冬休みSPWでも、さまざまな新しい試みが着々と準備されている。進化したスペシャルウィーク、「冬休みスペシャルウィーク〜冬の太陽をいっぱい浴びよう〜」は1月13日（金）から15日（日）に開催！ぜひ遊びに来てください！

遠藤（Civic Coordinator）

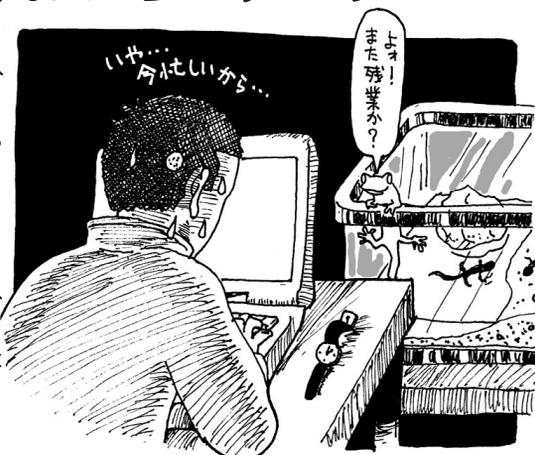
ほんねのスタッフ ⑪ おいらのデスク

おいらの“デスク”は、ちょっと変わった場所にある。それは玄関に入っただけで、ロビーの展示コーナーの一角の場所である。

他のスタッフのデスクは、奥まった旧館の事務室にあるのだが、おいらのだけはそんなところにmyパソコンがおいてあり、そこで事務仕事とともに館内案内も行うのだ。たまに“ここが、あなたのデスクですか？”と驚かれることもある。この“デスク”の場所が、結構大変なのだ。

なにしろ、いざ事務仕事に集中しようとしていると、来館された方が入ってきて、いろいろと案内もするし、話が盛り上がることもしばしば。自動ドアが開くたびに、いろんな方々がいらっしゃるのだから、もともとから不得意な事務仕事も、なかなか集中できない！でも、実は、来てくれた方々と、会話をしたり、遊ぶ時間が一番楽しいし、いろいろと勉強にもなる。

ときには、そのまま一緒に外に行って、旬の自然を楽しんだり、案内したりもするのだ。だから、ロビーに席があるのは、大変だ！とは訴えつつも、他のスタッフには、その“デスク”を譲りたくはない！というのが、ほんねのところ。(N)



菊池先生の鉱山見聞録



に感動!

③鳥の視点?に感動



「ふおれすと鉱山」には、昭和22年に撮影された鉱山町の「航空写真」を展示しています。

この「航空写真」からは、今から約60年前の鉱山町の様子を探ることができます。

たとえば、現在ではもう見ることのできない「硫黄精錬所」やその原料となる硫黄をひと山越えた壮瞥町の黄溪から運ぶために作られた「鉄索」また、鉱山で働く従業員が生活する「長屋」などが鮮明に写っています。

さらに、精錬所からの煙害のため木が枯れ、露出している山肌の様子や、多くの人でにぎわっていたという「銀座通り」周辺の様子なども上空から、うかがうことができます。

また、「実体鏡」という特殊な機械を使って覗くと、この航空写真をなっなんと!「立体的」に見ることができます。目に映るその世界は、昔の鉱山町の上空を舞うまさに「鳥の視点」です。「過去」へタイムスリップした感覚にドキドキしながら覗いています。みなさんも昔の鉱山町を「鳥の視点」で覗いてみませんか?
(菊池)

刻まれた物語 ～年輪のひみつ～

えんどうめぐみの 森のひみつシリーズ⑮

最近、グラウンド前のトドマツを切って、材を生み出すという機会がありました。木を切って森に残されたのは、年輪の刻まれた切り株。数えてみると、だいたい30数年前後。この年輪にかくされた秘密とは!?

ちなみに年輪は、樹木の生長速度の周期的な違いからできます。日本でいえば、春夏秋冬の四季のことです。春から夏にかけては、葉っぱをたくさん広げ、その間に幹を太らせていきます。夏の終わりから秋にかけては、太陽光線が弱くなるので成長が遅くなり、冬には成長が止まります。幹はこれを繰り返して成長するのですが、夏の終わりから秋にかけての成長が遅くなった時期にできた部分が輪のように見えます。だから年輪は、日本では、1年に1つできます。そして、その幅にも、ひみつがかくされています。主に気候条件に左右され、広くなったり、狭くなったりしますがそれだけではありません。その樹木が経験した生育条件も重なってきます。幅が狭くなっている時期には、周りの木たちと光を求めて競争したかもしれないし、生長する時期に雨が多かったのかもしれません。まさに、年輪は過去が刻まれており、過去を物語ってくれるのです。

グラウンドにあるトドマツ林は、かつてこどもたちが植えたとのこと。年輪の数と鉱山小中学校が閉校したころ(昭和48年)はほぼ一致します。植えられたあと、このトドマツは、どんな30年を過ごしてきたか!と思いを馳せるとともに、この材を大事に活用しなくちゃなとしみじみ思ったのでした。



しわ一本一本に
物語が刻み込まれているのです。

リレーエッセイ Roots and Shoots リトル・ヴォイス

「森のようちえん」は「森の…」

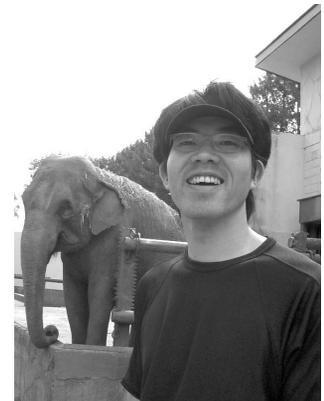
栗山 丈弘

「そうだボランティアに行こう!」と書かれたチラシを手にして僕はニヤリとした。このチラシは「ふおれすと鉱山」の幼児向けプログラムである「森のようちえん」に関わるボランティアを募集しているというものだ。ちょうど短大で担当している「社会参加」という授業をどうしようか考えている時だった僕は、いい機会にめぐりあえたと嬉しくなったのだ。

僕は、学校の中の閉じた空間での「学び」だけでは学生の育ちには限界があると感じている。もっと体験的な学びの機会を増やして、多くの人々との関わりを持たせたいと考えていた。けれども、学生たちのライフスタイルは学校と家庭、それとアルバイトかサークルで満たされていて、同年代の友人との人間関係がほとんどのようだ。ボランティア活動に参加しているという学生はごくわずかだ。そんな学生たちにボランティア活動をするきっかけとささやかな体験の場を与えたいと考え「社会参加」という科目を新設したのだ。

快く学生の派遣を受け入れてくれたふおれすとのスタッフの協力のもと、8~10月の3回にわたり「森のようちえん」に、16名の学生を参加させていただいた。「最初はお金ももらえないし、面倒だと思ってたけど、やってみると楽しかったし子どもとの関わって面白かった」「誰かのために役立つことって嬉しい!」「ボランティアをしている人って、不満や問題を誰かのせいにするんじゃなくて、自分でなんとかしようとしているんだなって気がついた」と学生は体験をふりかえっている。

「森のようちえん」はまた「森のたんきだいがく」でもあった訳だ。子どもたちやその保護者の方々、ふおれすと鉱山のスタッフ、そして鉱山の森に感謝している。
(文化女子大学室蘭短期大学 講師)



1977年札幌生まれ 北海道教育大学大学院修了。専攻は社会科教育学。一応、短大に勤めているが、研究よりも実践のほうが性に合っていると思っていて、環境や開発からまちづくりまで「市民参加型の学びの場」をつくることに力をいれている。調理師の父の影響からか、「食べる」ことが趣味。「食」をテーマにした学習プログラムをつくることが今後の目標。



EVENT INFORMATION

イベントチェック

ふおれすと鉱山の事業

1/13 (金) ~15日 (日) 冬休みスペシャルウィーク
 1/14 (土) ~15日 (日) 雪中キャンプ (小学3・4年生対象)
 2/5 (日) ふおれすと鉱山冬まつり
 & 山神社カップ2006
 2/18 (土) ~19 (日) 雪中キャンプ (小学5・6年生対象)

モモンガクラブの事業

1/22 (日) 歩くスキー
 2/12 (日) 冬のハイキング
 2/26 (日) 歩くスキー
 3/5 (日)、11 (土)

もりのようちえん

1/28 (土)、29 (日)
 2/25 (土)、26 (日)
 3/25 (土)、26 (日)

ながぐつレンジャー

1/28 (土) 2/25 (土)
 3/25 (土)

BRAND NEW EVENT!

のんびり 鉱山の自然めぐり

ふおれすと鉱山周辺の散策。冬はかんじきをはいて、いろいろなものを見にいきますよ!

1/26 (金)、1/31 (火)

CHECK IT!!

冬休みスペシャルウィーク

冬の太陽をいっぱい浴びよう!!

今回のスペシャルウィークは、外でめいいっぱい遊べる場をご用意しました。そして…なぞの村が出現します。何がでてくるのかは当日のお楽しみ。夜のプログラムもあります。星空の下で、きっと何かが起こる、かも?!

1/8 (sun) 10:00 ~ 15:00

プレオープン

「ティピィをつくろう!」

スノーキャンドルづくりも同時開催!

1/13 (fri) 10:00 ~ 15:00

1/14 (sat) 10:00 ~ 19:00

1/15 (sun) 10:00 ~ 15:00

開催当日は、これまでになかったプログラムたちが初お目見え! どうぞ期待!!

スペシャルウィークボランティア募集!

スペシャルウィークとは…旬の自然遊びを楽しめるお祭りです。一緒に盛り上げませんか?

- ティピィ村をつくろう: 木材や葉っぱを使って、中で遊べるような木のうちを造ります。プレオープンの1月8日(日)に行います。
- 冬らしい自然体験遊び: 1月13日(金)から15日(日)に行われる冬休みスペシャルウィークのプログラムのお手伝いを募集します! たき火、もちつき、冬の外遊びなど、野外遊びが得意な人、興味ある人、子どもたちと遊ぶのが好きな人はぜひ!

HOT NEWS

「のんびり鉱山の自然めぐり」と銘打って、平日の大人向けプログラムを好評開催中です! 今は、野外での散策が中心ですが、これからは室内の創作活動なども行います。注目ですよ!

ふおれすと鉱山ご利用のご案内

開館・9:00~17:30 入館料・無料

休館日・毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日が休館となります)

・工作室・図書室はご自由に使っていただけます。そのほかに双眼鏡、

歩くスキー、調理台などをご利用いただけます。



エゾサンショウウオ
(佐藤 南津子)

EDITOR'S LOUNGE

今年も雪が降った。何事もなかったようにたくさん降り積もる雪を見ると、世界は何事も変わっていないんだと思う。だけど、僕らの予想をはるかに超えるスピードで地球は暖かくなっているようだ。結果、多くの生き物が絶滅するだろう。その中にホモサピエンスも入ることになると思う。だけど僕らは相変わらず今度の休日にどこでスキーを滑ろうかと考えている。

おくづけ

登別市ネイチャーセンター通信誌「鉱山録」 Vol.15

発行: 2006年1月

発行所: 〒059-0021 北海道登別市鉱山町8-3

電話番号: 0143-85-2569 FAX: 0143-81-5808

E-Mail: kouzan@pluto.plala.or.jp

URL: <http://www.noboribetsu.ed.jp/~ncenter/>